

# イノベーションの進化へ 長岡の未来を拓く “鍵”となるものとは



## 佐々木 順子さん

兵庫県出身。慶應義塾大学経済学部卒業後、日本アイ・ビー・エム株式会社にシステムエンジニアとして入社。執行役員となり、中国では2千人超の開発チームを統括。帰国後、マイクロソフト株式会社など複数の企業で社長や役員を歴任。人材育成や多様性の推進にも積極的に取り組む。

時代の変化を捉え、新たな発想やデジタル技術を取り入れて、市民生活の向上や産業の活性化を目指す「長岡版イノベーション」。これをさらに進化させ、長岡の未来を創るために必要な“鍵”とは一。

令和4年4月に長岡造形大学の理事長に就任した佐々木順子さんを迎え、市が目指すまちづくり・人づくりの展望を語り合いました。

★進行はFMながおかパーソナリティの山田光枝さん



## なぜ、今「イノベーション」なのか

**山田(進行)** あけましておめでとございます。昨年は新型コロナウイルスの影響が続く中、3年ぶりに長岡まつり大花火大会を開催するなど、徐々に動きを取り戻し始めた1年でもありました。  
**市長** そうでしたね。今年、これまで以上に市民がやりたことに挑戦する年にしていきたいものです。ウイルス禍で価値観が大きく変わったと言われていますが、今こそイ

## 1 Pick Up NAGAOKA WORKER

長岡で暮らしながら、首都圏企業に本社採用、同待遇でリモートワークをする新しい働き方。33社が賛同しています。

ノベーションで新しい価値を生み出すことが重要ではないでしょうか。  
**山田** 長岡市では平成29年度から「長岡版イノベーション」を進めていますね。どのような取り組みなのでしょう。  
**市長** 長岡版イノベーションは、4大学1高専と産業界・行政が、力を合わせて新しい産業・事業・商品を生み出すというムーブメント(運動)なんです。サテライトオフィスの進出や「ナガオカワーカー」<sup>①</sup>、イノベーション地区に関する東京大学・内閣

府との連携協定、地域バイオコミュニティの指定など、多くの動きが出てきました。長岡版イノベーションの取り組みが全国的に認知されてきた実感があります。  
**佐々木** リモートワークなどこにいても働ける世の中になつてきた今、ナガオカワーカーのような新しい働き方は、これからの時代の潮流ですね。  
**市長** 佐々木さんは、企業が進出するときの決め手は何だと考えますか。

**佐々木** やっぱ「人」ですね。長岡の人はきちんとしていて、辛抱強い。4大学1高専があり、各分野に優秀な人材がいるのも魅力です。また、東京からのアクセスも良く、自然豊かな環境やおいしい食べ物にあふれた長岡は、定住にも適したまちだと思います。  
**山田** 若者に長岡で働きたいと思ってもらうには何が必要でしょうか。  
**佐々木** 最近は就職先選びで「自分が成長できるか」や「会社が社会にどう貢献しているか」が重視されています。それに応えられる企業があっ

と増えるといいですね。  
**市長** 長岡は快適な生活環境に加え、人材や研究、産業の集積など選ばれるための条件がそろっています。地方分散リモートワークの流れも追い風ですね。でも何と云っても、新しい時代が求めるイノベーションを生み出す意欲というか、気概があることが長岡の一番の強みだと思います。  
**山田** 企業経験も豊富な佐々木さんは、イノベーションをどう捉えていますか。

**佐々木** 「今まで関わったことのない人と出会う」「新しいものの方や考え方を取り入れる」「やり方を変えてみる」など、これまでの枠を少

## 2023年は「DX元年」に

**市長** 今年は、市民サービス、市役所の仕事、そして企業活動のDX(デジタルトランスフォーメーション)に本腰を入れ、DX元年にしたいです。



## 2 Pick Up 製造業のDX支援

市では長岡産業活性化協会NAZEと連携し、製造業のデジタル化を伴走型で支援。アドバイザーの派遣(写真)や地元のIT事業者との連携により、生産性向上や作業の効率化を図ります。